「校長室の窓から」

令和８年（2026）４月１６日（木）
第６号　　発行：隈元（くまもと）　優一（ゆういち）

4月16日(木) 挨拶運動

今朝、校長室の外から「おはようございます」「おはようございます！」という、晴れやかで力強い挨拶の声が聞こえてきました。

生徒会のメンバーを中心に、登校してくる生徒や送迎の保護者の皆様一人一人に向けて、心を込めて挨拶をしてくれていました。その中には、生徒会に所属していないにもかかわらず、自ら進んで挨拶運動に参加している生徒の姿もあり、大変うれしく感じました。

本校へ向かう通学路は上り坂で、登校時はどうしても気持ちが下向きになりがちです。しかし、元気な挨拶が交わされることで、「今日も一日、学校で頑張ろう」「ここには自分を迎えてくれる人がいる」と感じられる、そんな温かい空気が生まれていました。挨拶には、人の心を明るくし、互いをつなぐ力があります。今日の朝の光景は、まさに本校が大切にしている「人と人とのつながり」を体現するものでした。

▲ 挨拶運動の様子

昨日は雨の中、そして本日は晴天の中で、状況に左右されることなく挨拶運動に取り組んでくれた皆さんに、校長として心から感謝します。「自分たちの学校を、よりよくしたい」という思いから行動する姿は、学校の誇りであり、後に続く大きな力になります。

これからも、挨拶を通して思いやりの心を育み、自分から一歩踏み出す勇気を大切にできる学校でありたいと強く願っています。

〈コラム〉 地域とともに根を張る一本桜

休憩時間に構内を歩いていると、学校の裏手の山に設けられた柵の奥に、一本の桜の木があることに気づきました。そばに立てられた看板には、次のように記されていました。

> 地域の宝「日野の郷地蔵一本桜」苗木植樹　２０１３年３月６日
> １９５４年、杉原川に堤防が完成した記念として６０本の桜の苗木が植えられました。その後ほとんどの桜は枯れてしまいましたが、一本だけが残りました。
> その寒緋桜「日野の郷地蔵一本桜」は、兵庫県の景観形成重要建造物に指定されています。
> ここにある桜は、その苗木を地域の方々のご厚意により譲り受け、本校と日野小学校に植樹したものです。

この桜は、地域の皆様の深い思いと善意によって、本校の地に根を下ろしました。本校に息づく一本桜は、地域と学校とが長い時間をかけて育んできた「強いつながり」の象徴であり、静かに、しかし確かに、子どもたちの成長を見守ってくれています。

目立つ存在ではありませんが、毎年変わらず花を咲かせるこの桜の姿は、「支えられていることへの感謝」や「受け継がれてきた思いの大切さ」を、私たちに問いかけているように感じます。

生徒の皆さんには、自分たちが多くの人の願いや応援の中で学び、成長していることを、この一本桜を通して感じてもらえればと思います。

これからも本校は、地域とともに歩み、地域に学び、地域から信頼される学校であり続けたいと願っています。そして、この一本桜のように、困難があっても根を張り、自分らしく成長していける生徒を育んでいきたいと考えています。

▲日野の郷地蔵一本桜